その他研究業績一覧

1．研究論文･図書リスト

⑴ 査読付き論文リスト（口頭発表のための資料集に掲載された論文等は含めない）

［1］ Maruyama, A., Tanahashi, E., Hirayama, T., and Yonekura, R, “A comparison of changes in stable isotope ratios in the epidermal mucus and muscle tissue of slow-growing adult catfish”, Ecology of Freshwater Fish. 26 : pp636-642（2017）

［2］ Shigeta, K., Tsuma, S,, Yonekura, R, Kakamu H., Maruyama, A., “Isotopic analysis of epidermal mucus in freshwater fishes can reveal short-time diet variations”, Ecological Research . 32 : pp633-641（2017）

［3］ Iwai, N.*, Koyama, N.*, Tsuji, S.*, Maruyama, A.*, “Functions of indigenous animals in paddy fields: An in situ experiment on their effects on water quality, phytoplankton, weeds, soil structure, and rice growth”, Paddy and Water Environment. In press.［*: equal contribution］

［4］ 神松幸弘・富田晋介・丸山　敦・船津耕平・門司和彦、“メコン川下流水田域における生業、土地利用、生態系サービス：水位変動下における適応”、環太平洋文明研究. 1 : pp69-92（2017）

［5］ 西大嵩樹・丸山　敦、“ニジマスの採餌応答に見られるルアー色と濁度の交互作用”、魚類学雑誌、64(2)、印刷中（2017）

［6］ 今村彰生・橋本果穂・丸山　敦、“2015年夏季に琵琶湖北西岸で捕獲された魚食性絶滅危惧魚種ハス（Opsariichthys uncirostris uncirostris）の空腸率と体型について”、伊豆沼・内沼研究報告、印刷中（2017）

［7］ 沢田　隼・米倉竜次・丸山　敦、“アユの炭素，窒素安定同位体比分析のための脂質量補正式と筋肉，卵巣，粘液における濃縮係数”、魚類学雑誌. 65(1)、印刷中（2018）

［8］ Sato H, SogoY, Doi H, Yamanaka H , “Usefulness and limitations of sample pooling for environmental DNA metabarcoding of freshwater fish communities”, Scientific Reports Vol.7 pp14860（1 Nov 2017）

［9］ 秋山道雄、“ラムサール条約湿地としての琵琶湖―登録が果たした機能を中心に―”、『地理科学』Vol. 72, No. 3, pp. 166-181（2017年10月）

［10］ Watanabe, S., Kaneko, Y., Maesako, Y., Noma, N. , “Detecting the early genetic effects of habitat degradation in small size remnant populations of Machilus thunbergii Sieb. et Zucc.(Lauraceae) ”, International Journal of Forestry Research Volume 2017: pp1-7.（2017年3月）

⑵ その他の誌上発表リスト（図書を除く，査読のない雑誌等）

［1］ 神松幸弘・丸山　敦、“変態の遅延するモリアオガエル(Rhacophorus arboreus)幼生の観察および炭素・窒素安定同位体分析による生態的地位の推定”、爬虫両棲類学会誌. 2017(1):

pp30-36（2017）
[2] 遊磨正秀 編、“ホタル関連文献目録2016年版”、全国ホタル研究会. 297 pp（2017）
[3] 遊磨正秀、“総説動植物に対する「光害」，特にホタル類への影響”、全国ホタル研究会誌 50 : pp25-40（2017）
[4] 秋山道雄、“分水嶺にきていた工業用水問題の分析”、『水資源・環境研究』Vol. 30, No. 2, pp. 25-26（2017年12月）
[5] 須川　恒、“北の国からの来訪者―オオミズナギドリ・ユリカモメ・コクガン―”、ALULA（No.54,2017春号): pp36-42（2017）
[6] 須川　恒、“ユリカモメのカラーリング調査は世界を結ぶ―大阪自然史フェス2016ブース展示報告―”、ALULA（No.54,2017春号): pp43-48（2017）
[7] 高橋佳孝、“阿蘇草原の自然再生と草資源の堆肥利用”、GREEN AGE 2017年7月号 pp30-33（2017年7月15日）
[8] 高橋佳孝、“風景を語る　第1回高橋佳孝氏（阿蘇草原再生協議会会長）”、文化的景観だより（阿蘇郡市世界文化遺産登録事業推進協議会事務局（阿蘇世界文化遺産推進室））1号 pp3（2017年3月）

(3) 図書リスト

[1] 西野麻知子・秋山道雄・中島拓男編、“琵琶湖岸からのメッセージ　保全・再生のための視点”、サンライズ出版 pp. 248（2017年10月5日）
[2] 橋本啓史・須川恒、“第７章　水鳥の現状とその変遷―価値ある湖岸湿地保全のために”、西野麻知子・秋山道雄・中島拓男（編）『琵琶湖岸からのメッセージ　保全・再生のための視点』（pp248)、サンライズ出版 pp176-193（うち　7-1, 7-4は須川・橋本）
[3] 須川　恒・橋本啓史、“7-14　水鳥”、琵琶湖ハンドブック三訂検討チーム会議（編）『琵琶湖ハンドブック三訂版』、滋賀県琵琶湖環境部環境政策課（2018予定）
[4] Yositaka Takahashi, Andereas Neef, Hiroshi Yokogawa, “Conservation and Restoration of Traditional Grasslands in the Mount Aso Region of Kyushu, Japan―The role of collaborative management and publlic policy support―”, Shifting Cultivation Policies: Balancing Environmental and Social Sustainability（Cairns M ed.). Centre for Agriculture and Biosciences International（CABI), pp174-192（2017年11月）
[5] 横川　洋・高橋佳孝（共編著)、“阿蘇地域における農耕景観と生態系サービス―文化的景観論で地域価値を再発見し世界文化遺産登録を支援する―”、農林統計出版 pp1-378（2017年4月11日）

２．口頭発表リスト

[1] 沢田　隼・藤原壮平・遊磨正秀・丸山敦、“安定同位体比で判明した琵琶湖に生息するアユにおける各生活史型の産卵特性”、第65回魚類自然史研究会（龍谷大学、大津市）（2017年11月19日）
[2] 鶴谷峻之・遊磨正秀、“アジメドジョウの摂餌生態と付着藻類をめぐる種間関係”、第65回日本生態学会大会、札幌コンベンションセンター（札幌市）（2018年3月予定）
[3] 野村将一郎・遊磨正秀、“琵琶湖沿岸部におけるオオクチバス稚魚の食性”、第65回日本生

態学会大会、札幌コンベンションセンター（札幌市）（2018年3月予定）
[4] 沢田　隼・藤原壮平・遊磨正秀・丸山敦、“琵琶湖水系に陸封されたアユの安定同位体比からわかること～異なる時間スケールの食性を示す複数組織を組み合わせて～”、第65回日本生態学会大会、札幌コンベンションセンター（札幌市）（2018年3月予定）
[5] 谷垣岳人、“里山の自然”、（招待講演）京都府高等学校理科教育研究会連絡協議会実習助手部会（京都市）（2017年5月18日）
[6] 谷垣岳人、“減りゆく日本の生物多様性と自然再生”、青島農業大学―龍谷大学研究交流会（中国青島市）（2017年9月13日）
[7] 谷垣岳人、“日中相互訪問型里山実習”、大学間里山交流会2017（兵庫県三田市）（2017年9月24日）
[8] 秋山道雄、“琵琶湖保全再生計画の位相−琵総終結後20年間の堆積と変容をめぐって−”、水資源・環境学会2017年度研究大会（大阪府茨木市）（2017年6月3日）
[9] 須川　恒、“京都府冠島におけるオオミズナギドリの生残率推定”、（ポスター発表）日本鳥学会大会（つくば市、筑波大学）（2017年9月17日）
[10] 須川　恒、“京都府冠島におけるオオミズナギドリの標識調査による生残率推定”、日本鳥類標識協会出雲大会（出雲市）（2017年10月1日）
[11] 須川　恒、“渡り鳥は世界を結ぶPart11『北の国からの来訪者―オオミズナギドリ・ユリカモメ・コクガン―』”、（連続講演）川西自然教室妙見山合宿（本瀧寺、大阪府豊能郡）（2017年5月13日）
[12] 須川　恒、“文化財の中の探鳥”、八尾市旧植田家住宅企画展「植田家に潜む“鳥"」講演会（八尾市）（2017年11月25日）
[13] 谷垣岳人、“京都の里山と昆虫たち”、龍谷講座×里山学研究センター〈シリーズ〉伏見のいきものを知る第1回、龍谷大学（京都市）（2017年10月7日）
[14] 須川　恒、“伏見とかかわる身近な鳥、渡りをする水鳥たち”、龍谷講座×里山学研究センター〈シリーズ〉伏見のいきものを知る第2回、龍谷大学（京都市）（2017年10月21日）
[15] 好廣眞一、“伏見に暮らすけものたち”、龍谷講座×里山学研究センター〈シリーズ〉伏見のいきものを知る第3回、龍谷大学（京都市）（2017年11月18日）
[16] 谷垣岳人・好廣眞一・須川恒・上西実、“夜の野生動物観察会”、龍谷講座×里山学研究センター〈シリーズ〉伏見のいきものを知る現地学習（京都市）（2017年11月10日）
[17] 高橋佳孝、“九州の宝”千年の草原”をどう守り育むか”、第31回肥後の水とみどりの愛護賞シンポジウム（熊本市）（2017年10月25日）
[18] 横川昌史・井上雅仁・堤　道生・白川勝信・高橋佳孝、“熊本県阿蘇東外輪山における草原再生に伴う7年間の植生の変化”、植生学会第22回大会沖縄大会（那覇市）（2017年10月22日）
[19] 高橋佳孝、“火山と草原”、阿蘇ガイド養成講座（主催：阿蘇ガイド養成講座実行委員会）（阿蘇市）（2017年10月21日）
[20] 平舘俊太郎・楠本良延・森田沙綾香・小柳知代・横川昌史・高橋佳孝、“表層土壌の化学特性および管理手法が草原における出現植物種に及ぼす影響～阿蘇の草原における事例～”、日本土壌肥料学会九州支部例会（佐賀市）（2017年9月22日）
[21] 高桑進、“日本の森林資源の保全と有効利用について～若者へのメッセ～ジ”、第１回大

阪エコパートナーシップ交流会講演（大阪市）（2017年7月29日）
［22］高桑進、“生命環境教育しています”、大阪ベンチャー研究会（大阪市）（2017年8月19日）
［23］高桑進、“環境教育プログラムとしての新しい炭焼きの取組み”、第12回大学間里山交流会（兵庫県三田市）（2017年9月24日）
［24］高桑進、“天然スギの起源と利用の歴史”、宮津杉保存会研究会（宮津市）（2017年10月9日）

３．報道掲載リスト

［1］“ピンクのキリギリス見つけた　京都、色素が変異”、京都新聞、2017年9月23日
［2］“ゲンゴロウ見つけたよ”、京都新聞、2017年7月9日
［3］“島と人と海鳥の遺産・冠島”、京都大学新聞（Web版　http://www.kyoto-up.org/archives/2575）、2017年7月1日
［4］“オオミズナギドリ　府鳥、繁殖に陰り？　舞鶴・冠島で生態調査”、毎日新聞（京都地方版）、2017年8月29日
［5］“龍谷講座×里山学研究センター　身近な鳥に関心を”、龍谷大学新聞（625号、Web版　http://www.rpress.net/article/625/07.html）、2017年11月15日
［6］“「カブ王国」滋賀　種子保存の支援体制を”、京都新聞、2017年11月24日
［7］“かんさい情報ネットｔｅｎ.”、読売テレビ、2017年12月1日
［8］“千年の草原　地下水育む 「肥後の水とみどりの愛護賞」表彰式　講演　阿蘇草原再生協議会　高橋佳孝氏”、熊本日日新聞、2017年11月24日
［9］“ゲンゴロウ米　地域活性　龍谷大生がブランド提言　京丹後、過疎の三重・森本地区／京都”、毎日新聞（地方版、https://mainichi.jp/articles/20180116/ddl/k26/100/394000c）、2018年１月16日

４．ホームページによる研究成果の公表等

［1］http://www.est.ryukoku.ac.jp/est/yuhma/YUMA_hotaruDAS2017.html
掲載情報の概要：里山学研究センターにおける京滋の里川におけるゲンジボタルの発生量の経年変化に関する研究について、所属研究室のwebにおいて公表した。（遊磨正秀）
公表日：2017年7月
［2］http://www.ryukoku.ac.jp/nc/news/entry-982.html
掲載情報の概要：政策学部「政策実践・探究演習（海外）」京丹後市にて有機栽培野菜の販売、絶滅危惧種ゲンゴロウ等を活かした「ゲンゴロウ米」収穫の実施報告を龍谷大学HPにおいて公開した。（金紅実・谷垣岳人）
公表日：2017年9月27日
［3］http://www.ryukoku.ac.jp/nc/news/entry-1341.html
掲載情報の概要：龍谷ＩＰ事業「政策実践・探究演習（海外）南京プログラム」のFD報告会の開催報告を龍谷大学HPにおいて公開した。（金紅実・谷垣岳人）
公表日：2017年12月18日
［4］http://www.worldwetlandsday.org/display-event?p_p_id=eventdisplay_WAR_ramwwdayportlet&p_p_lifecycle=0&p_p_state=maximized&p_p_mode=view&p_p_

col_id=column-1&p_p_col_count=2&_eventdisplay_WAR_ramwwdayportlet_mvcPath=%2Fhtml%2Fevent%2Fdisplay%2Fview.jsp&_eventdisplay_WAR_ramwwdayportlet_redirect=%2Fmap&_eventdisplay_WAR_ramwwdayportlet_eventEntryId=4595

掲載情報の概要：以下のポスター資料などをラムサール条約事務局世界湿地の日2017のウェブサイト上で公開した。（須川恒）

ポスター発表資料詳細：須川恒・野村祐美子・植田潤、“世界湿地の日2017in湖北―湿地と防災/減災・河川と流域へのまなざし―”

公表日：2017年4月

５．その他（各種委員会活動、成果頒布等）

［1］谷垣岳人、京都府外来種専門委員会での昆虫･クモ班のとりまとめ

［2］須川恒、環境省モニタリング1000ガンカモ類検討委員会委員、2004年～現在

［3］須川恒、環境省モニタリング1000海鳥調査検討員会委員、2008年12月～現在

［4］須川恒、京都府カワウ対策協議会（副会長）、2009年～現在

［5］須川恒、滋賀県カワウ総合対策協議会委員、2010年7月～現在

［6］須川恒、三重県紀伊長島鳥獣保護区カワウ対策連絡協議会委員、2011年8月～現在

［7］須川恒、関西広域連合関西地域カワウ広域保護管理計画検討委員会委員、2011年11月～現在

［8］須川恒、大阪府槇尾川上流部自然環境保全対策検討委員会委員、2012年4月～現在

［9］須川恒、滋賀県カワウ総合対策協議会個体数調整部会委員、2013年11月～現在

［10］須川恒、新名神高速道路、滋賀県域自然環境保全検討会WG委員、2014年8月～現在

［11］須川恒、新名神高速道路、京都府域自然環境保全検討会委員、2015年10月～現在

［12］須川恒、京都府外来種実態調査専門委員会（鳥類班代表）、2016年～現在

［13］須川恒、滋賀県カワウ特定計画（第３次）検討委員会、2016年～現在

［14］須川恒、京都府希少野生生物保全専門委員会（2017年京都府生物多様性戦略検討）2017年10月～現在

［15］高桑進、京都伝統と文化の森推進協議会森林整備・景観対策専門委員会委員長、2016年4月～現在

［16］金紅実、特定非営利活動法人近畿環境市民活動相互支援センター（NPO法人エコネット近畿）理事、2017年２月～現在